

田万川地域の公共交通の課題と将来像(案) について

田万川地域意見交換会

平成31年2月

1.アンケート調査結果の概要

- ・萩市全体
- ・田万川地域

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要

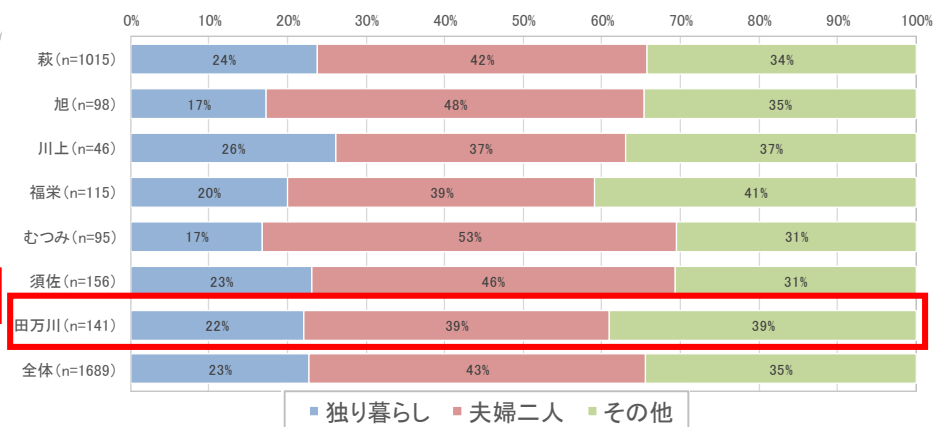
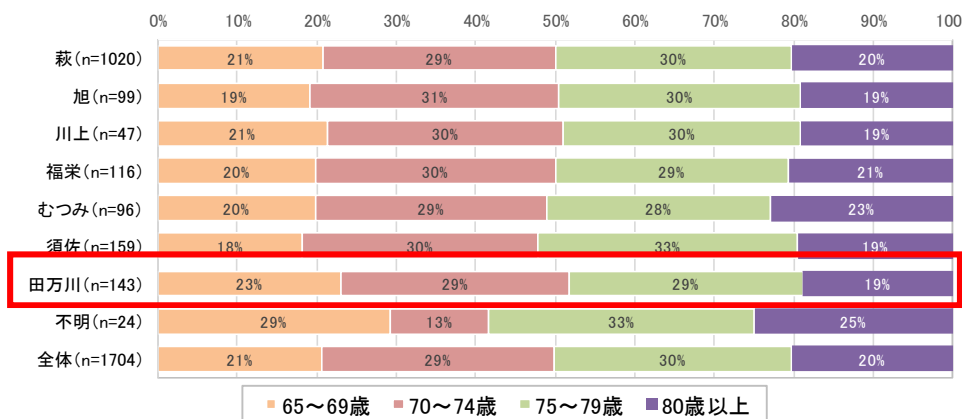
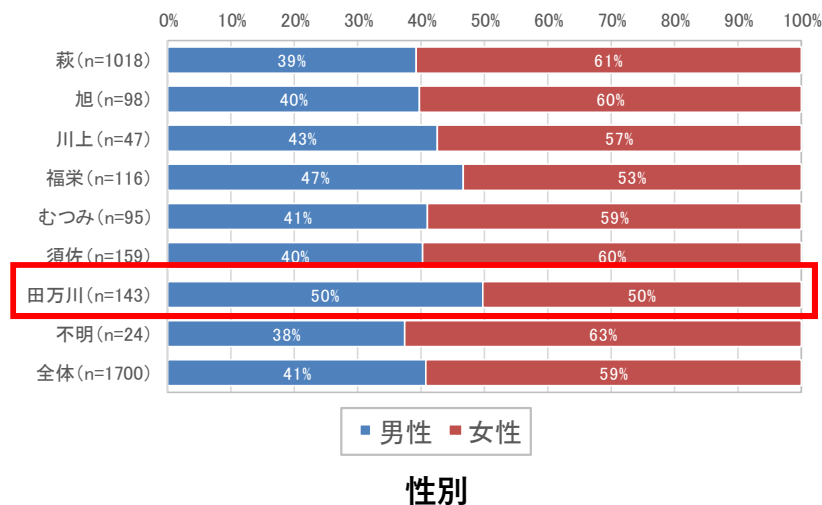
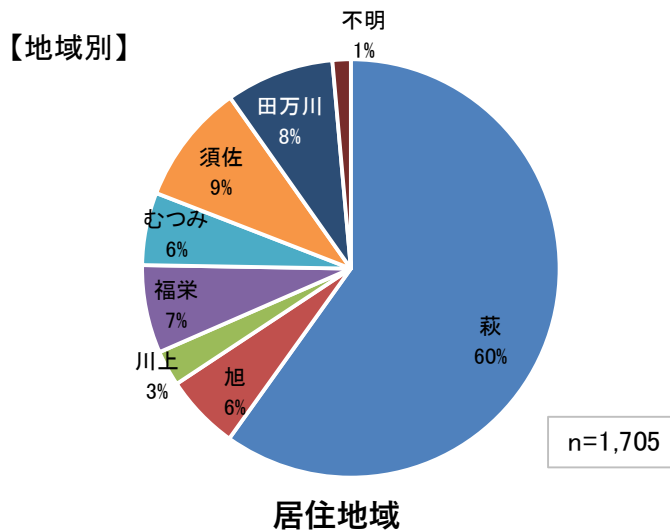
- ・JR山陰本線
- ・路線バス(防長交通、石見交通)
- ・ぐるっとバス

3.高齢者生活支援バスについて

4.田万川地域の公共交通の課題と将来像(案)について

1. アンケート調査結果の概要（萩市全体）

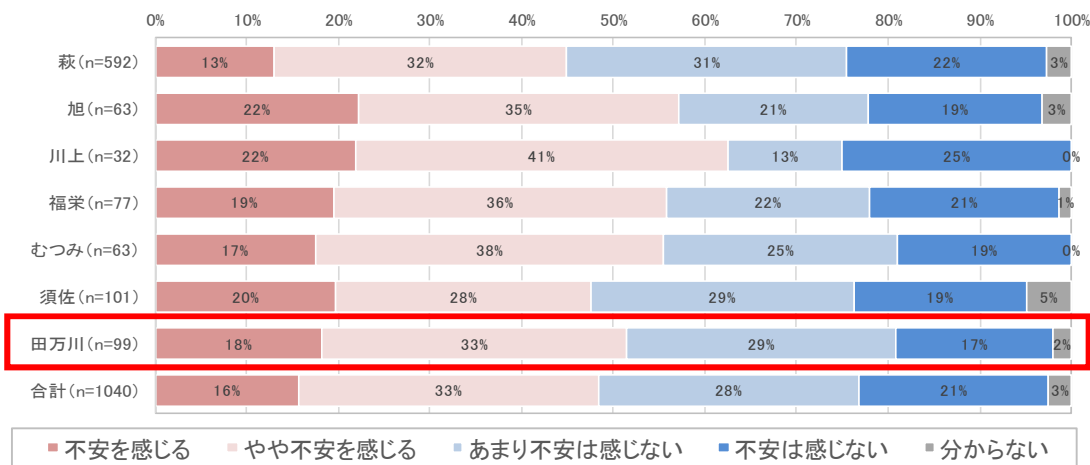
- 市内に居住する65歳以上の方を対象にアンケート調査を実施しました。
- 無作為に抽出した2,000名の内、1,705名の方から回答が得られました。（回答率85%）
- 田万川地域は、無作為に抽出した184名のうち、143名の方から回答が得られました。（回答率78%）
- 居住地・性別・年齢・家族構成などの回答者の属性は、以下のとおりです。



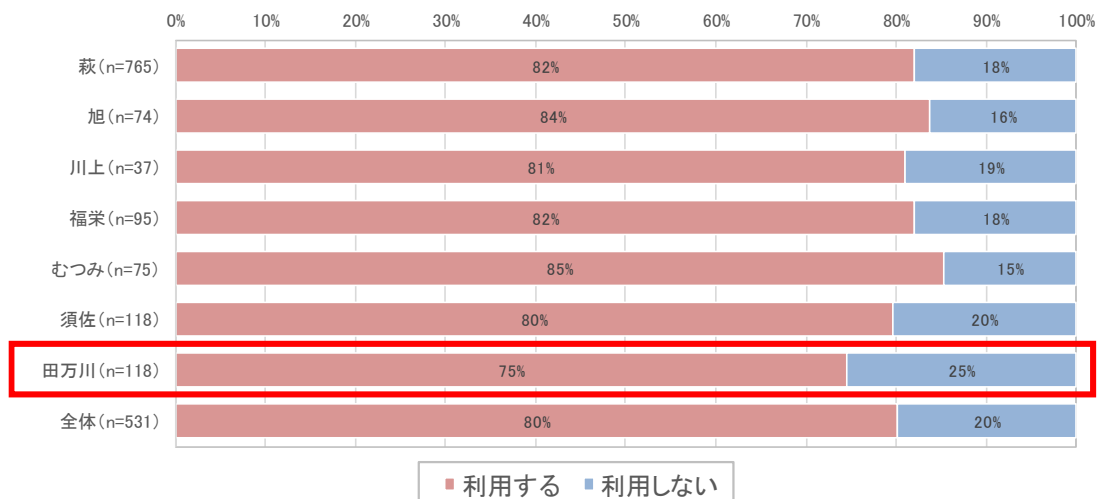
家族構成

1. アンケート調査結果の概要（萩市全体）

- 自動車運転免許保有者の近い将来の運転への不安は、「不安を感じる」が2割、「やや不安を感じる」が3割であり、半数の方が近い将来の運転への不安を抱えています。
- 自動車の運転が不安になった場合、路線バス等の公共交通の利用意向は、「利用する」が8割を占めています。



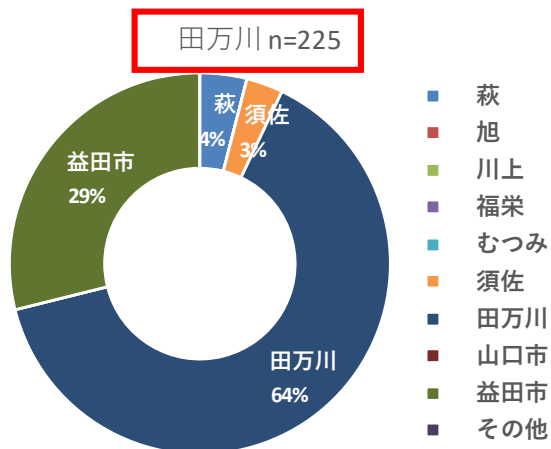
近い将来の運転への不安（自動車運転免許保有者）



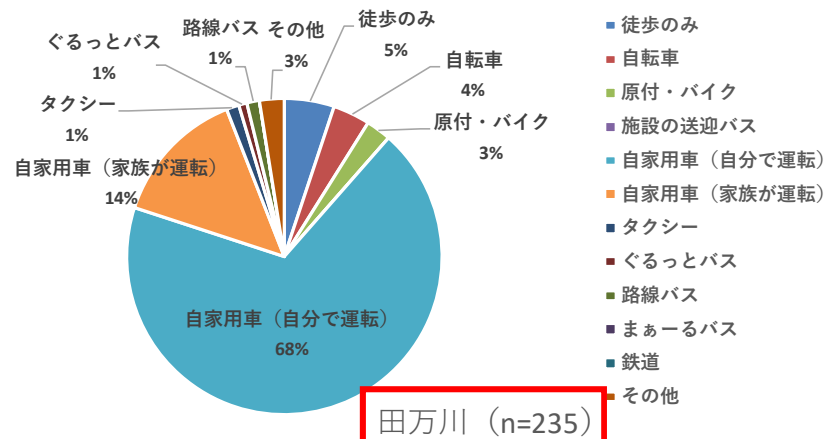
自動車の運転が不安になった場合、路線バス等の公共交通の利用意向

1. アンケート調査結果の概要（田万川地域）

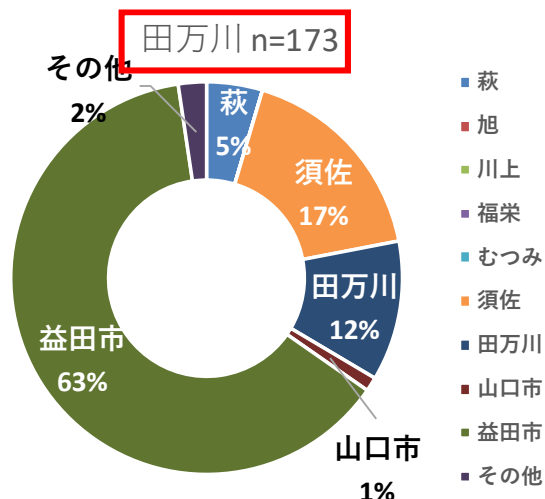
- 田万川地域の高齢者の買物や通院は、田万川地域内や須佐地域、益田市への移動が多くみられます。
- 交通手段は、「自家用車(自分で運転)」が7割、「自家用車(家族が運転)」が1割弱であり、公共交通（路線バス・鉄道・ぐるっとバス）の利用は1割にも満たない状況です。



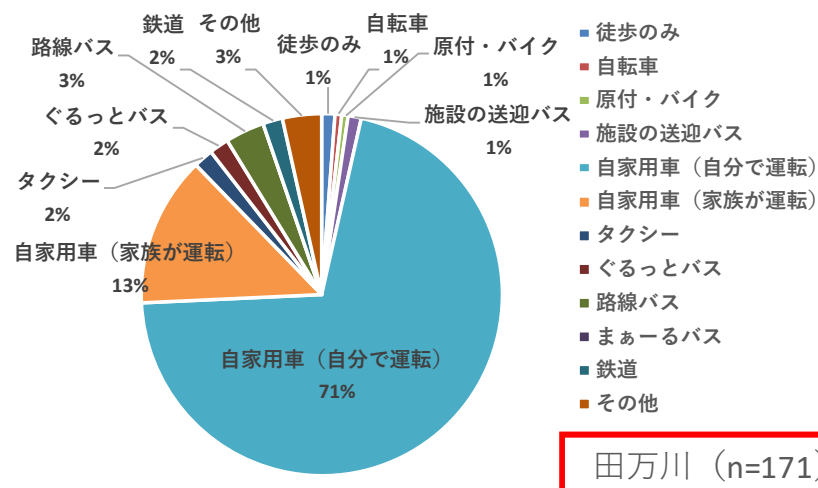
買物でよく利用する地域（お店）



買い物での交通手段



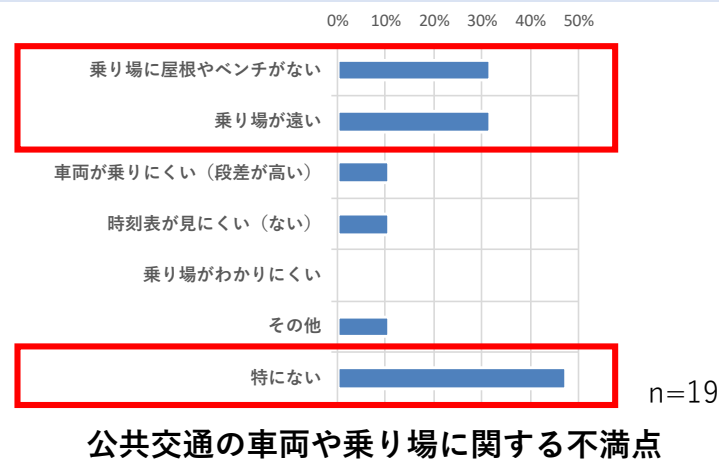
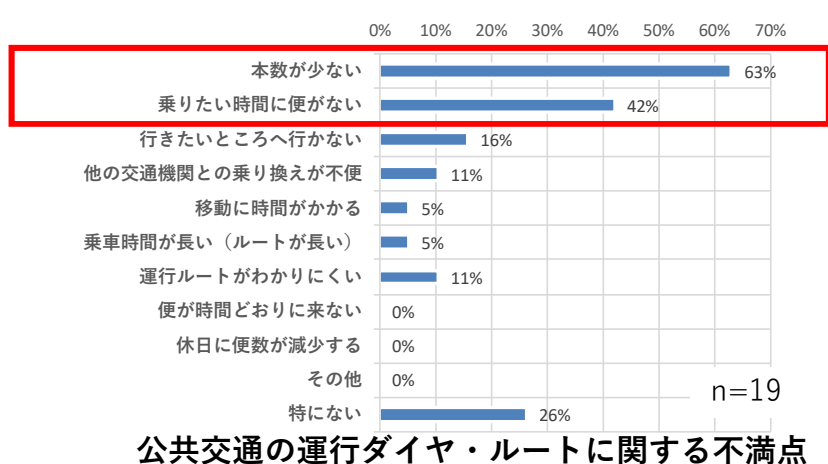
通院でよく利用する地域（病院）



通院での交通手段

1. アンケート調査結果の概要（田万川地域）

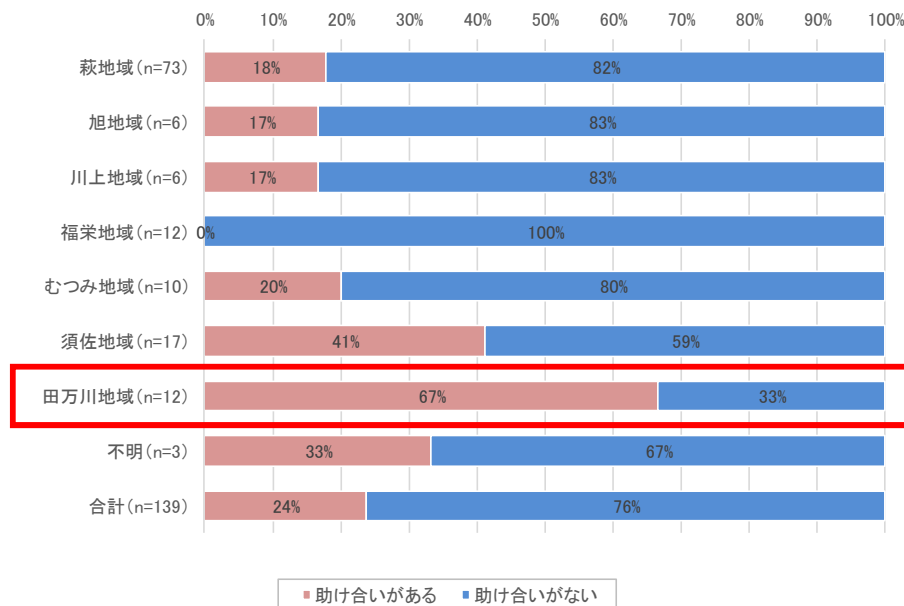
- 運行ダイヤ・ルートに関する不満点については、「運行本数が少ない」が6割、「乗りたい時間に便がない」が4割でした。
- 車両や乗り場に関する不満点については、「特にない」が5割、「乗り場に屋根やベンチがない」が3割、「乗り場が遠い」が3割でした。
- 今後の公共交通の見直しについては、「バスを小型化する」が3割、「自宅、病院やスーパーの近くにバス乗り場を設置する」が3割弱、「料金を安くする」が2割でした。



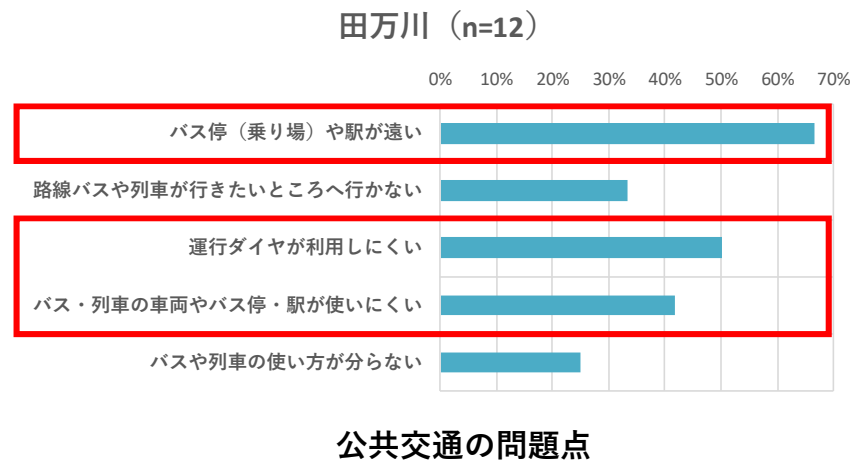
1. アンケート調査結果の概要（田万川地域）

【民生委員アンケート調査結果】

- 民生委員173名 回答者数145名（田万川地域民生委員回答者数12名）
- 地域内での移動に関する助け合い（買物や通院支援等）は、「助け合いがある」が7割、「助け合いがない」が3割であり、他地域と比較して助け合いの割合が非常に高くなっています。
- 公共交通の問題点としては、「バス停(乗り場)や駅が遠い」が7割弱、「運行ダイヤが利用しにくい」が5割、「バス・列車の車両やバス停・駅が使いにくい」が4割でした。
- 田万川地域は、住居が路線バスの通る県道17号線や14号線沿いから離れおり、バス停(乗り場)が遠いことが大きな問題になっていると考えられます。



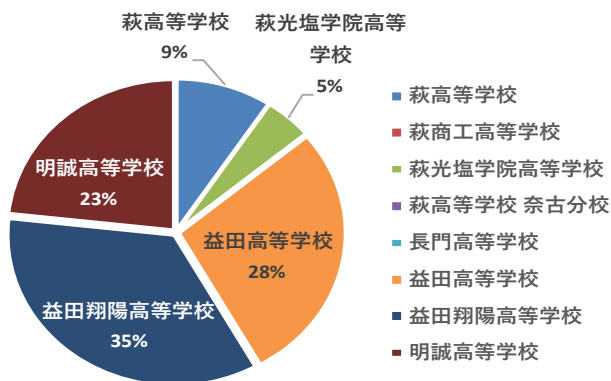
地域内での移動に関する助け合い（買い物や通院支援等）



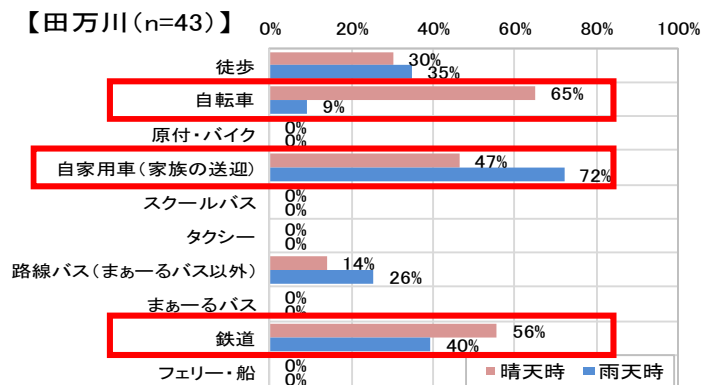
1. アンケート調査結果の概要（田万川地域）

【高校生アンケート調査結果】

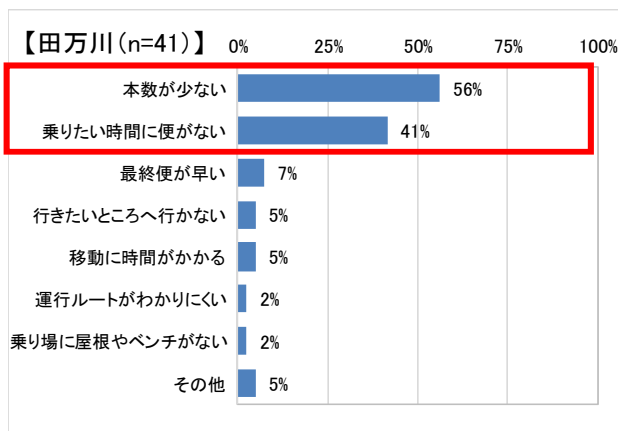
- 高校生986名 回答者数888名（田万川地域高校生回答者数43名）
- 高校生の通学先は、益田方面へ9割、萩方面へ1割の学生が通学しています。
- 通学手段は、「鉄道」と「自転車」が6割、「家族の送迎」が5割を占めています。益田方面に鉄道で通学しており、鉄道の維持・確保が重要となります。
- 公共交通に関する不満点については、「運行本数が少ない」が6割、「乗りたい時間に便がない」が4割となっています。



通学先 田万川地域 (n=43)



高校生の通学手段



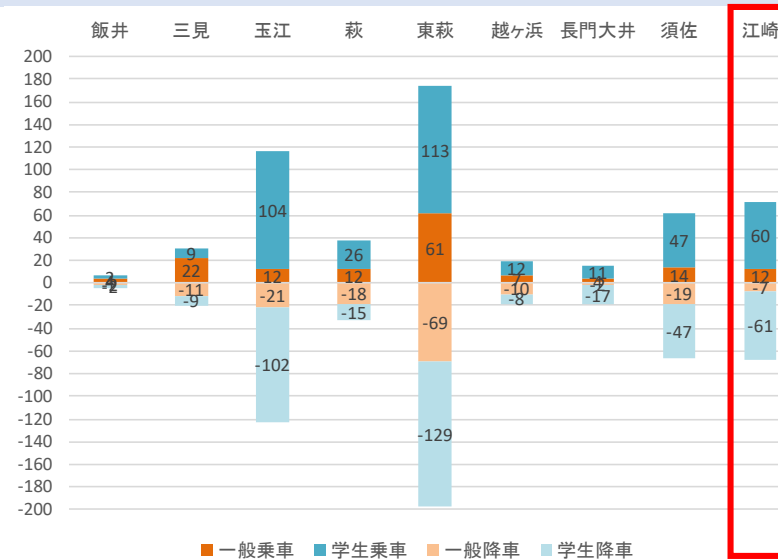
公共交通に関する不満点

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(JR山陰本線)

- JR江崎駅は、年間約1.5万人の利用があります。平日1日あたりの乗降者数は140人でしたが、調査実施日に中学生の団体利用があったため、普段は100人以下だと推計されます。
- 主な利用目的は、学生の通学利用となっています。

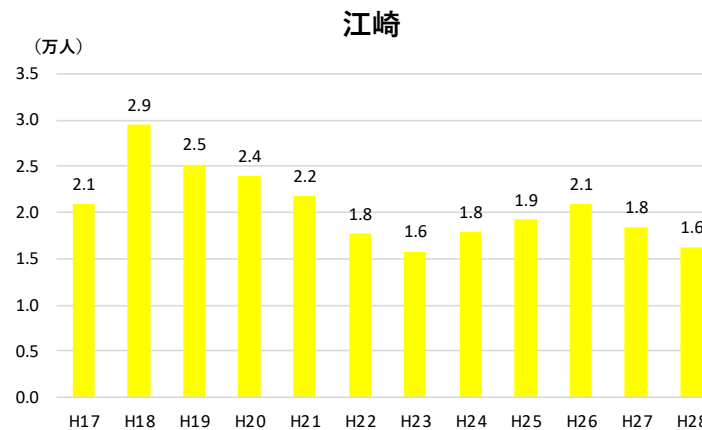
時	長門・萩方面	時	益田方面
6	長門 20 長門 54	7	益田 10
8	長門 15	8	益田 31
9	東萩 57	9	益田 29
13	長門 52	14	益田 41
18	下関 11	17	益田 44
19	長門 32	19	益田 02
21	東萩 15	20	益田 47
		22	益田 44

JR江崎駅 時刻表



JR利用者数 (平日1日)

出典：JR利用状況調査結果

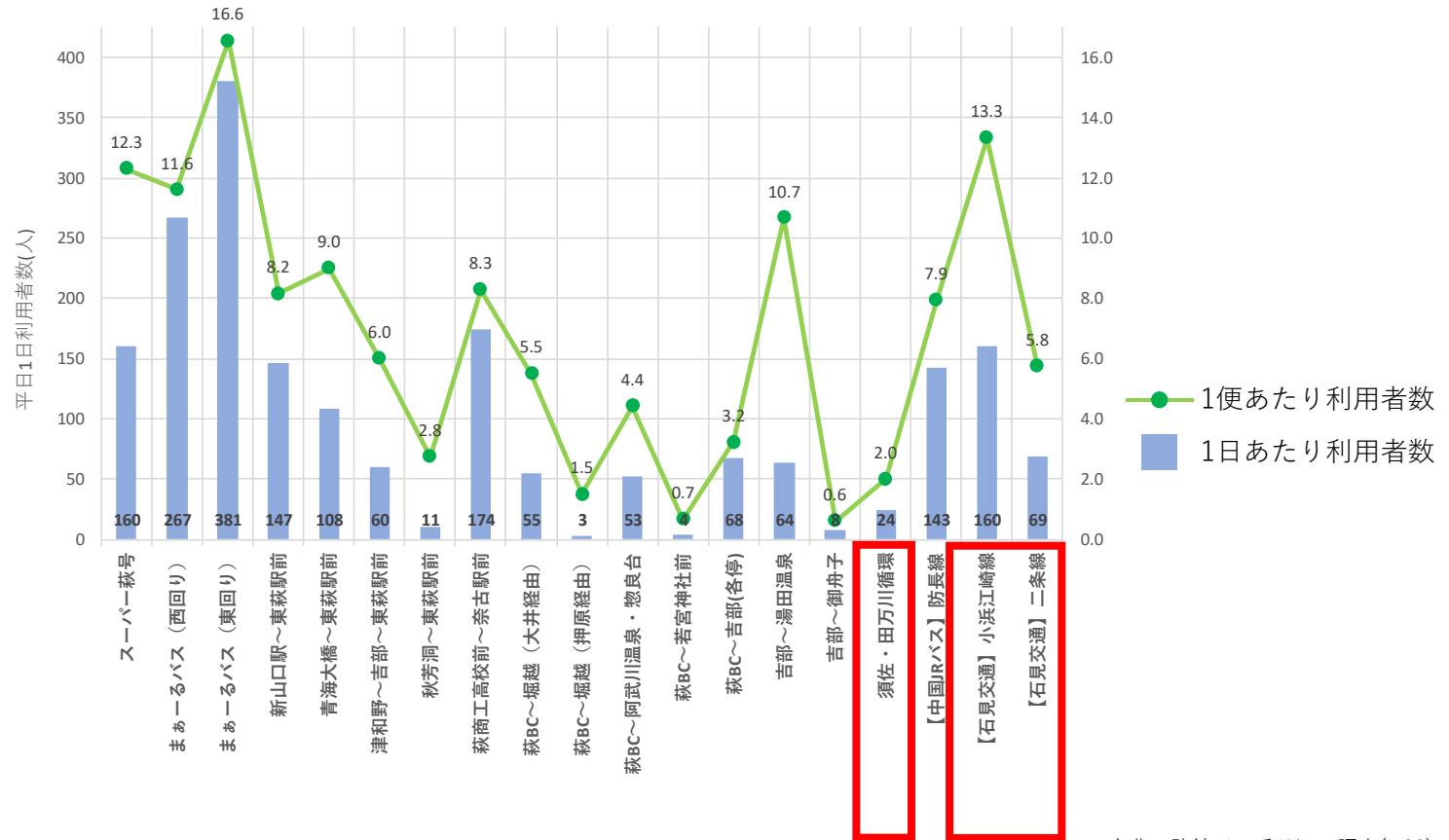


江崎駅の利用者数 (年間)

出典：山口県統計年鑑

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

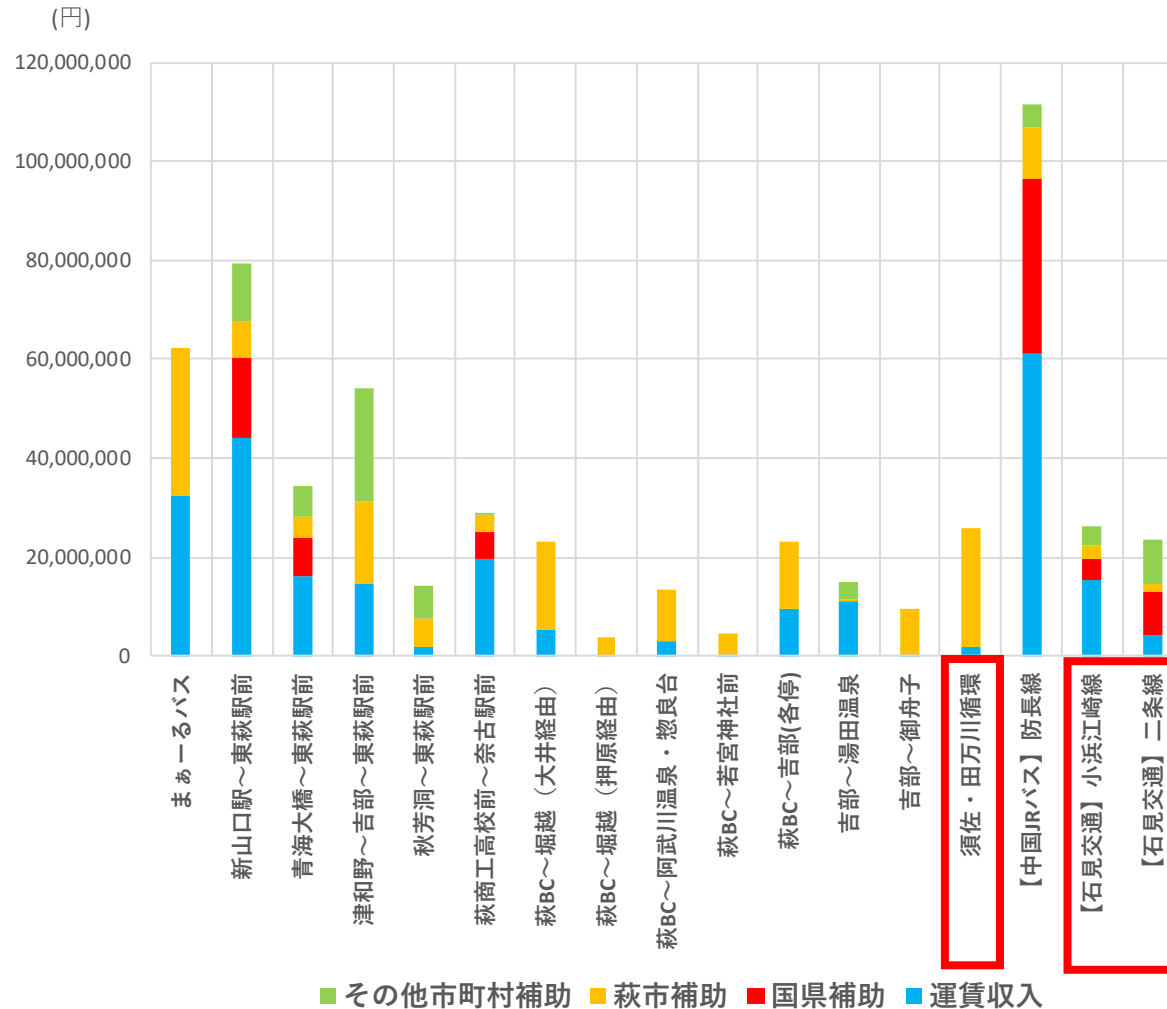
- 萩市全域の路線バスの平日1日あたりの利用者数、1便あたりの利用者数を整理しました。
- 田万川地域を運行する路線バスは、防長交通の「須佐・田万川循環線」及び石見交通の「小浜江崎線」「二条線」があります。
- **防長交通の「須佐・田万川循環線」は、1便当たりの利用者数が2人となっており、他の路線と比較して利用者数が少なくなっています。**
- 石見交通の「小浜江崎線」は13人/便と利用者数が多く、「二条線」も6人/便と一定の利用が見られます。



平日1日あたり利用者数及び1便あたり利用者数

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

- 萩市全域の路線バスの運賃収入及び国、県、萩市、その他自治体による補助金額を整理しました。
- 利用の低迷しているバス路線もあり、萩市の財政負担は増加傾向にあります。



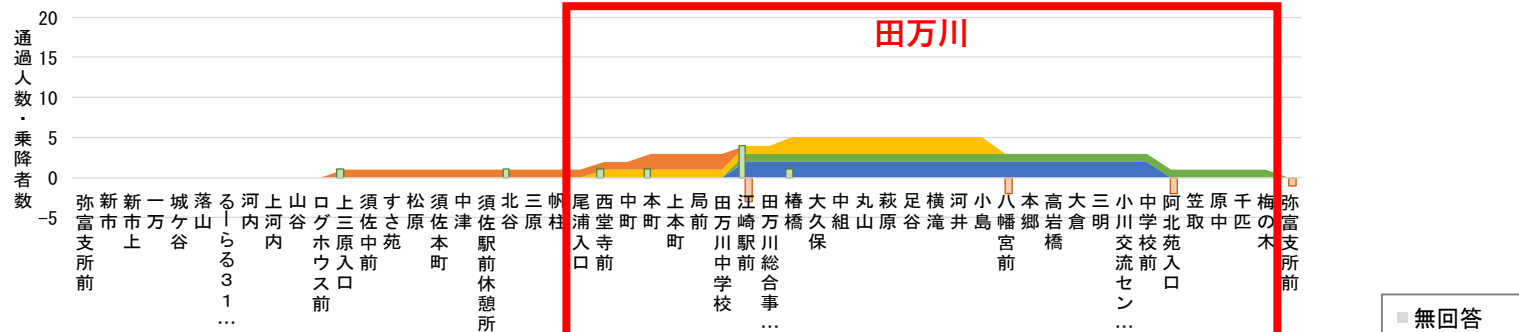
運賃収入・補助金額(欠損額)

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

【防長交通 須佐・田万川循環線】

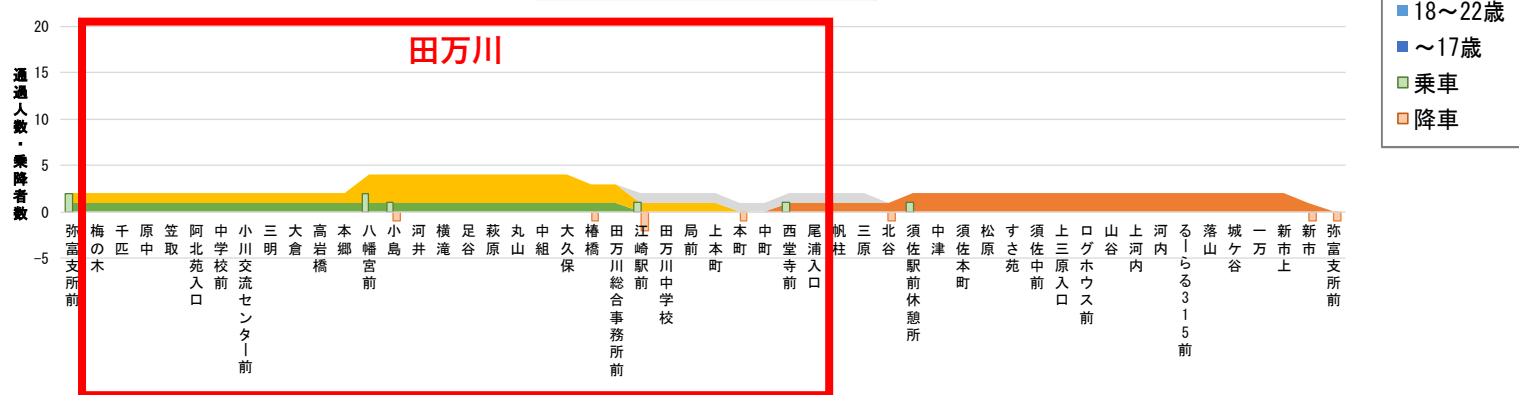
- 須佐・田万川循環線は、1日あたり12便運行しているものの、利用が低迷しています。(24人/日、2人/便)
- 時計回りルート、反時計回りルートなど様々なルートがあり、運行ルートが利用者にとって分かりづらいものになっています。
- 利用の低迷する須佐・田万川循環線に関しては、深刻な運転士不足も相まって、将来的に路線を維持することが困難になる可能性があり、今後、代替交通手段への見直しも視野に入れていく必要があります。

■須佐田万川循環線 (時計回り)



江崎駅での乗降が多い

■須佐田万川循環線 (反時計回り)



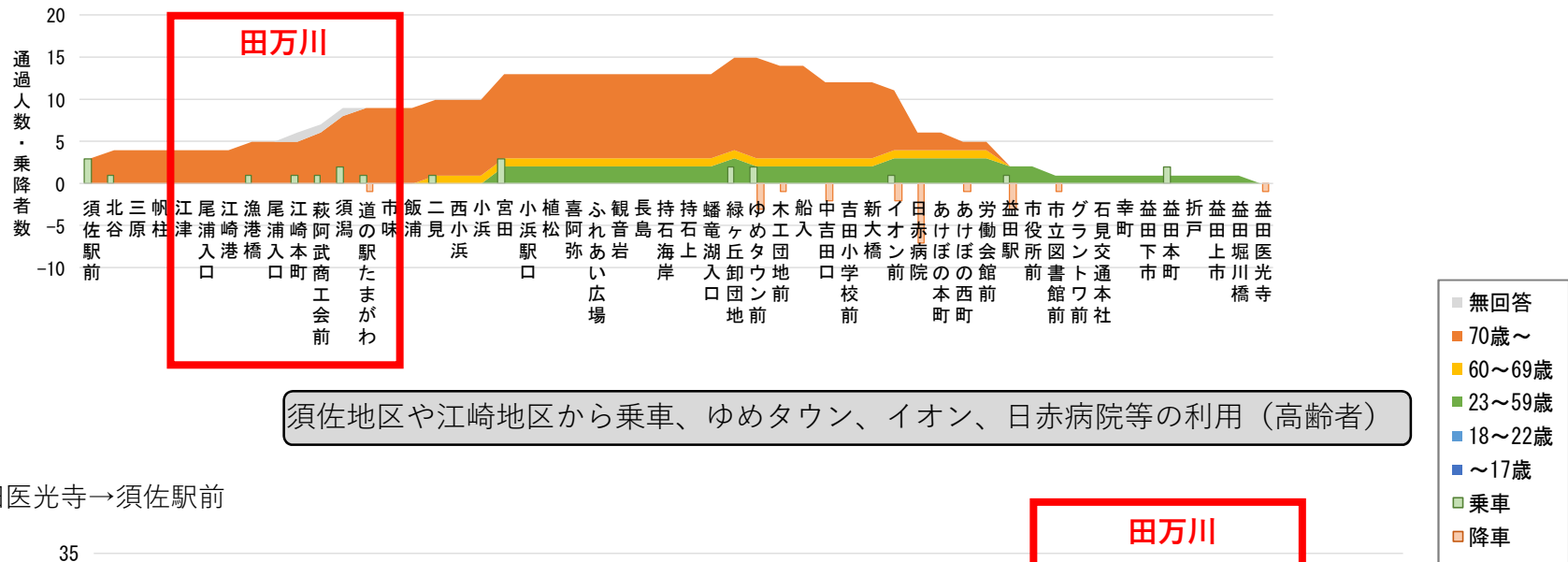
出典：路線バス乗込み調査 (H30)

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

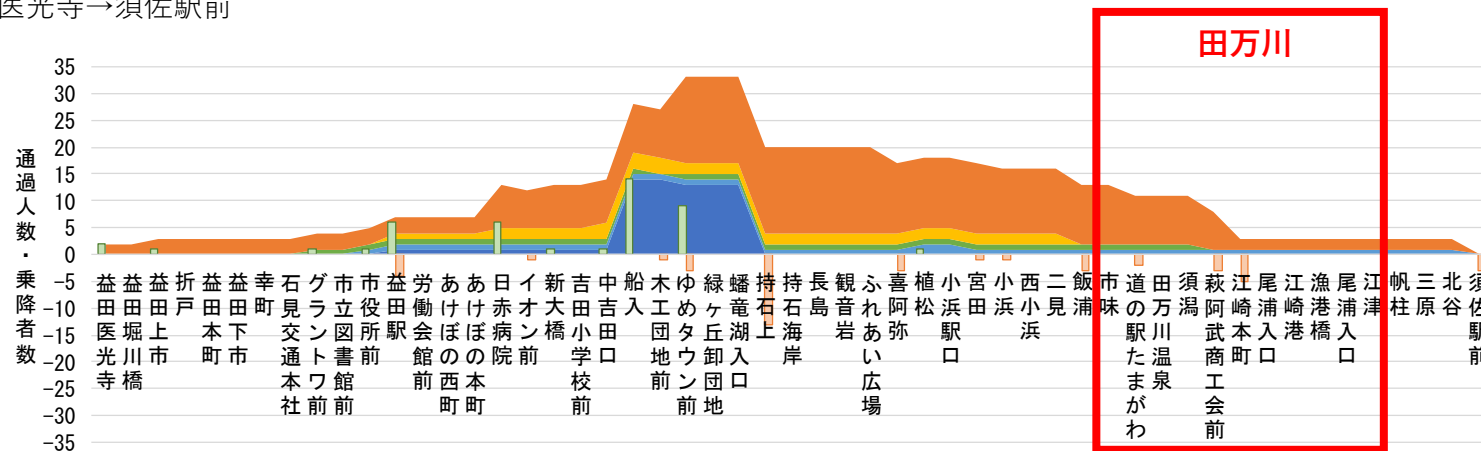
【石見交通 小浜江崎線】

- 小浜江崎線は、1日あたり12便運行しており、うち6便は江崎港止まりとなっています。
- 須佐地区や江崎地区から乗車して、ゆめタウン、イオン、日赤病院等で下車する高齢者の利用が多く、須佐地域及び田万川地域の高齢者の買い物や通院等の移動手段として重要な役割を担っています。

■須佐駅前→益田医光寺



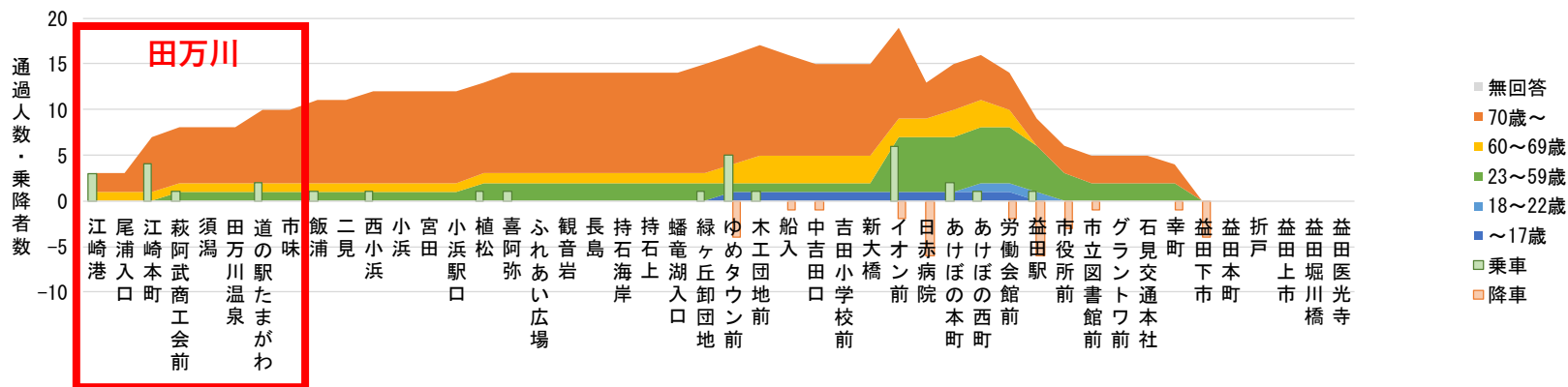
■益田医光寺→須佐駅前



2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

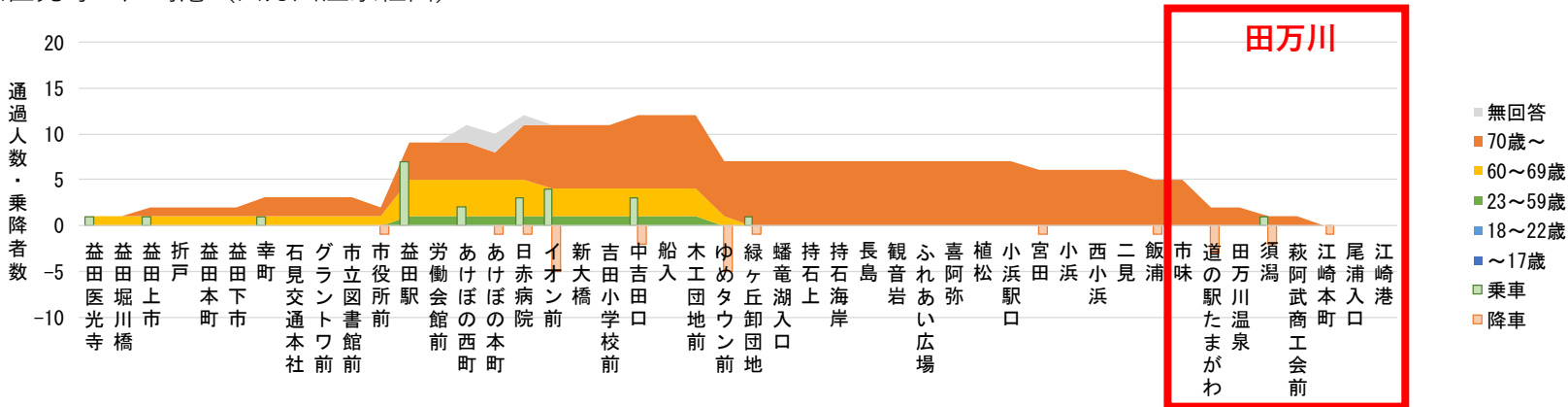
【石見交通 小浜江崎線】

■江崎港→益田医光寺



江崎地区から乗車、ゆめタウン、イオン、日赤病院等の利用（高齢者）

■益田医光寺→江崎港（田万川温泉経由）

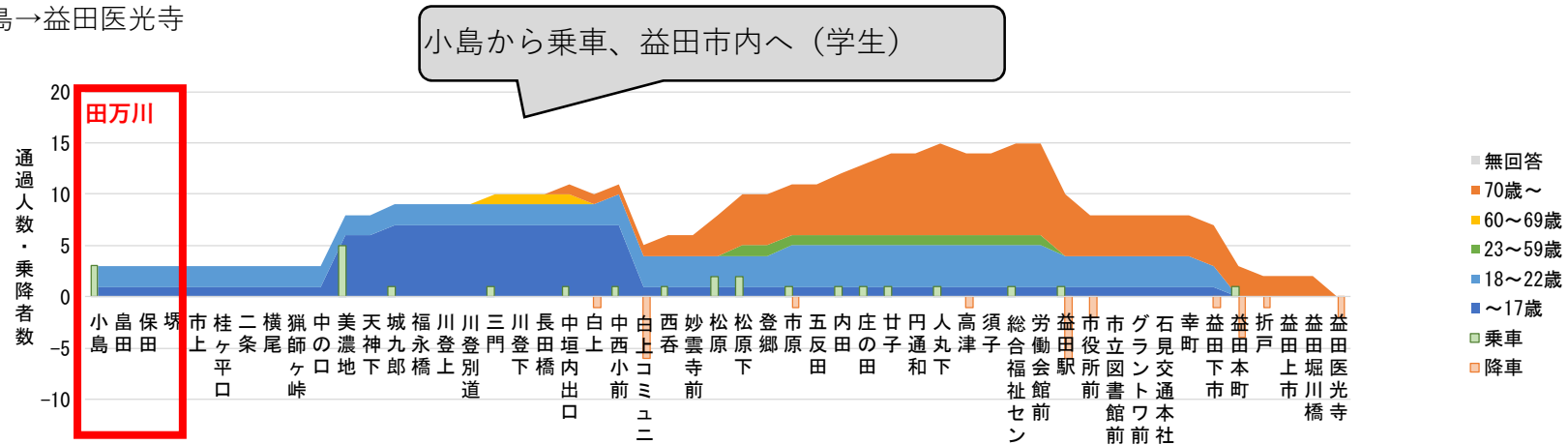


2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

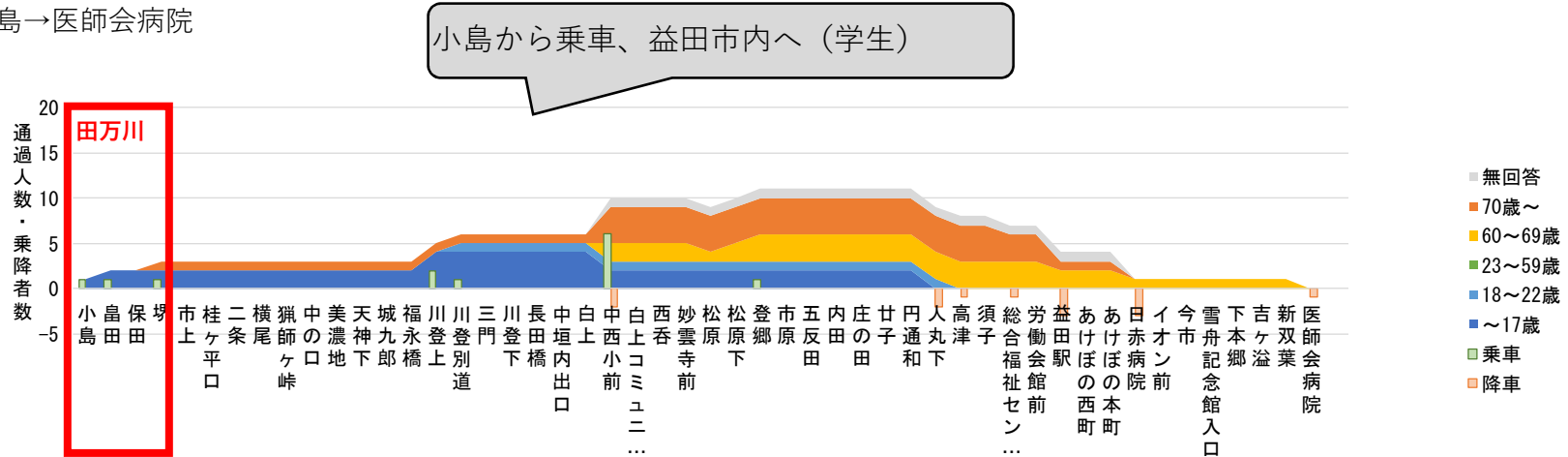
【石見交通 二条線】

- 二条線は、1日あたり12便運行しています。
- 小島バス停から乗車して益田市内へ通学する学生の利用があり、それ以外は益田市内での利用となっています。

■小島→益田医光寺



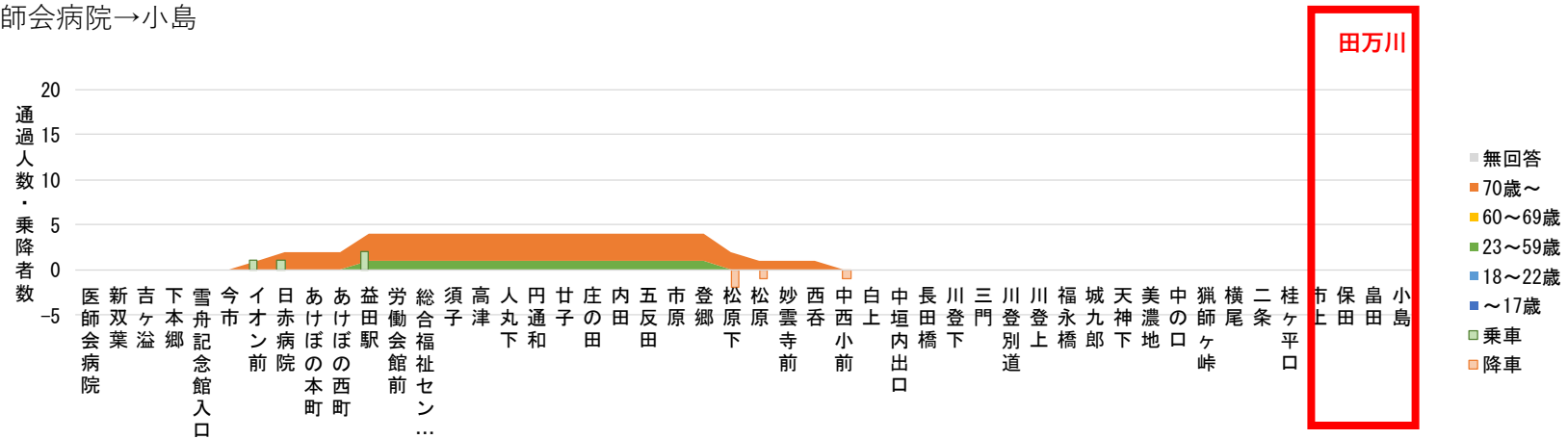
■小島→医師会病院



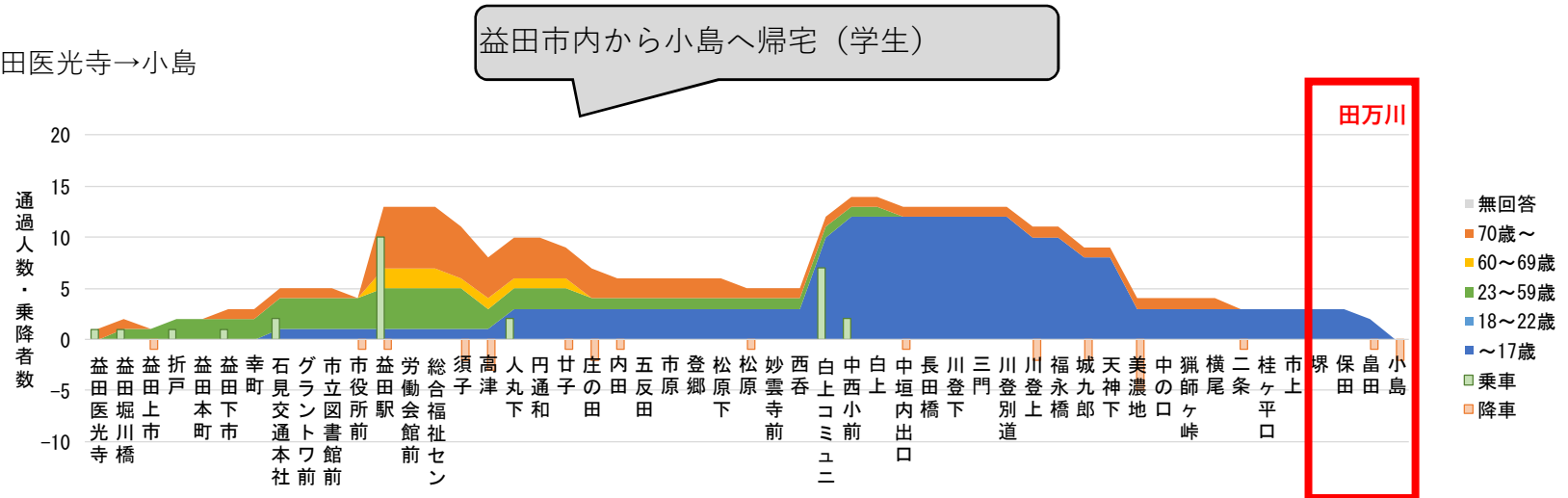
2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

【石見交通 二条線】

■医師会病院→小島



■益田医光寺→小島



2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 萩市は、交通空白地域における住民の地域内移動手段の確保を目的として、「ぐるっとバス」を各地域で運行しています。
- 田万川地域のぐるっとバスは、電話予約で自宅から目的施設（診療所、買い物施設、益田方面への乗継便として道の駅や江崎駅）までを結ぶデマンド運行です。
- 江崎地区と小川地区で地区毎に運行曜日、時間帯が異なります。
- 10人乗りワゴン車のため、県道沿いを通る路線バスよりも、より細かい道路まで入って自宅近くまで迎えに行きます。

曜日	地区	停留場所	行き時間	帰り時間
月曜	小川	・須佐診療センター ・田万川歯科診療所	①午前便 9:00 ②午後便 13:30-14:30	帰りの時間は、乗車当日、江崎タクシーの運転手の方と相談の上、調整をします
火曜	江崎	・田万川診療所 ・田万川歯科診療所	①午前便 9:00	
	小川		②午後便 13:30-14:30	
水曜	小川	・益田方面への乗継便 ①道の駅 ②江崎駅 ・キヌヤ、山口銀行、江崎郵便局	7:30-8:00	
木曜	小川	・田万川診療所	①午前便 9:00	
	江崎		②午後便 13:30-14:30	
金曜	江崎	・須佐診療センター ・田万川歯科診療所	①午前便 9:00 ②午後便 13:30-14:30	

田万川地域のぐるっとバスのチラシ（H30年）

2.田万川地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 須佐地域と田万川地域で3台のぐるっとバスを運行しています。
- 小川地区のぐるっとバスと弥富地区のぐるっとバスは、運行区域が重複しています。
- 田万川地域では江崎タクシーが平成31年3月に廃業されるため、ぐるっとバスの運行形態を見直します。

地域	地区	運行形態	運行方面	運行日	運行回数	H30実績	H29実績	H28実績	H27実績
須佐	須佐	デマンド	押谷・までかた・中畑方面	週3日	6便	1.2	1.0	1.0	1.5
			高山・北谷・野頭方面	週3日	6便	1.5	1.4	1.4	1.4
			帆柱・堀田・青葉台方面	週3日	6便	2.0	2.2	2.2	1.9
	弥富	デマンド	弥富1区～6区	週5日	2便	1.6	1.5	1.6	1.7
			弥富7区～13区	週5日	2便	2.2	2.3	2.5	2.0
			小川	週4日	2便	2.3	2.4	2.1	2.4
地域	地区	運行形態	運行方面	運行日	運行回数	H30実績	H29実績	H28実績	H27実績
田万川	江崎	デマンド	上田万	週3日	2便	0.0	2.0	1.7	1.8
			下田万	週3日	2便	2.5	1.6	2.1	2.3
			江崎	週3日	2便	1.1	1.3	2.1	2.1
	小川	デマンド	上小川	週4日	1-2便	1.4	1.3	1.4	1.3
			中小川	週4日	1-2便	1.6	1.8	1.5	1.3
			下小川	週4日	1-2便	2.2	2.4	2.1	3.1

ぐるっとバスの運行状況と利用状況

※H30実績：H30年4月～H31年1月の運行記録

➡ 運行形態の変更前
➡ 変更後

◆利用実績 (単位:人)

30年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
押谷・までかた・中畑方面	1	3	2	1	2	2	6	4	32				53
高山・北谷・野頭方面	4	12	6	9	12	7	11	4	22				87
帆柱・堀田・青葉台方面	36	29	27	22	34	18	41	35	55				297
計	41	44	35	32	48	27	58	43	109				437
29年度実績	47	48	60	49	41	47	48	52	63	43	37	41	576

平成30年度の須佐地区のぐるっとバスの利用者推移

3.高齢者生活支援バスについて

- 田万川地域では、住民主体による高齢者生活支援サービスとして、以下のサービスが実施されています。
- サロン活動での公共交通の利用や、住民主体の移動手段の推進により、持続可能な移動手段を確保することが必要です。

地域	地区	訪問型サービス（家事援助等）	通所型サービス（サロン活動等）	車両
田万川	江崎	<p>名称：たまらぼ 実施団体：NPO法人田万川地域サポート21 活動内容：受診介助・送迎、買物支援・代行等 実施回数：随時</p>	<p>名称：たま結び 実施団体：NPO法人田万川地域サポート21 活動内容：交流サロン 実施回数：月・水・金</p> <p>名称：おとなの部活 実施団体：江崎ささえ隊 活動内容：外出支援、サロン等 実施回数：月1回</p>	<p>トヨタハイエース 平成28年12月15日購入</p>
	小川	<p>名称：ふれあい訪問 実施団体：小川ささえ隊 活動内容：安否確認、室内清掃等 実施回数：随時</p>	<p>名称：みのりの広場 実施団体：小川ささえ隊 活動内容：サロン活動、出張美容室等 実施回数：月2回</p>	<p>”</p>

住民主体による高齢者生活支援サービス

4.田万川地域の公共交通の課題と将来像(案)について

【①田万川地域・須佐地域一体となった総合的な交通体系の構築】

- 田万川地域及び須佐地域では、買物や通院などの生活圏が重なっている部分が多く、利用の低迷する防長交通の須佐・田万川循環線に関しては、深刻な運転士不足により、将来的に路線を維持することが困難になる可能性もあり、また、タクシー事業者の休廃業への対応など、公共交通に関する課題も両地域に跨ったものとなっています。そうしたことから、田万川・須佐地域一体となった総合的な交通体系とすることで、住民の日常生活を支える生活交通網を構築します。

【②幹線と支線の役割分担の明確化や交通結節機能の強化等による効果的な運行体系の構築】

- JR山陰本線や石見交通は、萩地域や益田市への広域的な幹線として、江崎駅、道の駅たまがわ、小島バス停などの交通結節点で地域内移動を担う支線と接続します。高齢者や高校生などの移動実態と公共交通への要望等を踏まえ、広域幹線とぐるっとバスなどの支線の役割分担の明確化を図り、交通結節機能の強化等（乗継環境や待合環境の整備など）により、また、広域幹線や支線の運行形態も含めて、住民ニーズに応じたより効果的な運行体系を構築します。

【③様々な交通体系の組み合わせによる住民移動手段の確保】

- 交通事業者による広域幹線交通やぐるっとバス、自家用有償旅客運送、さらに住民の支え合いによる交通などの地域コミュニティ交通等の様々な交通体系を効果的に組み合わせることにより、交通事業者・行政・住民の協働による新たな公共交通網を形成し、暮らしを支える利用しやすい、持続可能な移動手段を確保します。

【④利用しやすい公共交通と利用促進】

- 高齢化が進展する中で、利用者に分かりやすく乗りやすい公共交通体系を構築するとともに、とりわけ周辺部における路線バス利用に係る運賃が割高であることから、福祉施策とも連携し、公共交通利用者の負担軽減策や全ての公共交通について、持続可能な移動手段を確保するため、利用者負担のあり方を検討します。